

17. 庄内肥育試験センターの枝肉成績向上への取り組み

中部振興局 生産流通部 畜産班
○後藤雅昭 木下達矢 山田啓介¹⁾
(¹⁾ 畜産振興課)

1 背景・目的

大分県農協由布事業部庄内肥育試験センター（以下「肥育センター」）は、繁殖農家に対して肥育成績のデータのフィードバック等を行うことで、地域内における優良母牛の保留推進など、地域の肉用牛振興の一翼を担っている。

しかし、枝肉成績のうち、特に枝肉重量平均（去勢）は、平成20年度には479.5kgであったが、23年度には453.7kgと低下傾向であった。さらに、農協からも歩留りの向上、前軀の充実を目指したいという要望があったことから、枝肉重量を中心とした枝肉成績の向上・安定を目的とした取り組みを行い、一定の成果が得られたので報告する。

2 活動内容

(1) 飼養管理状況の調査及びマニュアル改正の検討

各関係機関と連携し、牛の採食状況調査を行いながら、給与飼料や給与時期を見直すなど、マニュアル改正に向けた検討会を繰り返し開催した。

また、牛房内における個体間の強弱差を小さくするため、導入牛の除角を再開した。

(2) マニュアル改正後の進捗状況確認

マニュアル改正後は体重測定や採血等を実施し、発育の進捗状況を確認した。さらに、それらの結果から、ビタミン給与量や作業手順に改善すべき点がないか検討した。

3 活動の成果

(1) 枝肉成績の向上・経営の改善

24年度の枝肉成績（去勢）は枝肉重量平均480.6kg、A率73.8%、4・5率57.7%と、前年度と比較して向上させることができた。また、一日当たり増加額（去勢）は、23年度579円/日から24年度606円/日へと増加した。

(2) 農協の意識高揚

今回の取り組みによって関係機関、特に肥育センターとの信頼関係が強化され、農協や現場作業員の飼養管理に対する意識の向上が図られた。

4 今後の取り組み

(1) 厚脂改善と瑕疵低減、枝肉重量のばらつき縮小

特に雌牛で厚脂の傾向があることから、スキヤニングを活用した厚脂改善策、また、瑕疵が散見されることから、瑕疵低減のためのビタミン給与時期等の検討が必要である。さらに、同一群内で枝肉重量にばらつきが生じていることから、この差を縮小するための取り組みが必要である。

(2) 他の肥育農家や繁殖農家への波及による管内肉用牛振興

中部管内の肥育、繁殖農家に対し、肥育センターの肥育経過や成績、飼養管理方法に係る有益な知見を普及することにより、管内の肉用牛振興を図っていききたい。